

みたか環境ひろば 第76号

令和3年7月1日号



環境にやさしい『みつろうラップ』のご紹介

私たちの周りにはプラスチックがあふれています。プラスチックのおかげで生活は便利になりましたが、その一方で使い捨てが多くなり、捨てる土にかえることなくゴミとして地球上に残ってしまいますので、可能な限り使用量を削減したいものです。



そこで誰でも気軽にプラスチックごみの削減に取り組むことのできる「みつろうラップ」をご紹介します。「みつろうラップ」とは布に蜂の巣から採れる天然の「ろう」をコーティングした再利用可能で環境にやさしいラップです。通常のラップと違い水洗いすることで繰り返し使用できますし、好きな柄の布を選べば台所がはなやぎ毎日の家事が楽しくなります。このみつろうラップは、ご家庭で簡単に手作り可能です。今年の夏休みには「三鷹商工会主催 第2回 三鷹親子まちゼミ※」にて、ワークショップ「身近なSDGs-みつろうラップを作ろう」を開催予定ですのでよろしければご参加ください。



※お店が教室になる！「まちゼミ」とは

地域のお店の人が講師となって、専門店ならではの知識や情報、コツなどを無料（材料費は実費の場合あり）で教える「街の中の少人数のゼミナール」です。（石原）

参考URL <https://www.mitaka-machizemi.com/>

「まちゼミ」ホームページ →



ウェディングケーキ型のSDGs

SDGsのロゴが最近よく見かけられるようになりました。SDGs（持続可能な開発目標）は2015年に国連サミットで決められた国際社会共通の目標のことで、環境問題や社会問題などを解決するための17の目標と169のターゲットを掲げています。2030年までの達成をうたっていますが、こんなにたくさんの項目があると何をしたら良いか頭を抱えてしまいます。

そこでご紹介したいのが、スウェーデンの研究者が考案した“SDGsの概念”を表す図「SDGsウェディングケーキモデル」です。この図からSDGsの17の目標はバラバラではなく、相互に関連していることがよく分かります。

底辺を支えているのが「生物圏」で、「安全な水」「気候変動」「海の豊かさ」「陸の豊かさ」などの自然環境がテーマです。私たちの生活はこの豊かさに支えられていますが、その裏で森林伐採、マイクロプラスチックによる海の汚染などの環境破壊が進み、取り返しのつかないところに近づいています。「生物圏」が崩れると、「社会圏」や「経済圏」にも大きな影響が出ます。例えば温暖化で農作物や魚が捕れなくなると、食料不足、貧困や飢餓問題へ発展し、経済格差が広がり悪循環に陥ります。

それを止めるために、持続可能な社会を次の世代に手渡すためにできること、みんなで考えていきませんか。（大谷内）



ヨハン・ロックストローム氏（ストックホルム・レジリエンスセンター所長）の図

★★★ エコミュージカルをオンライン配信します ★★★

「みたか環境活動推進会議」と市では、6月の環境月間に合わせて、楽しみながら環境保全の大切さを学ぶことを目的に、エコミュージカル公演を行っています。令和3年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため無観客で公演を行いました。今回収録した作品をYouTubeの三鷹市公式動画チャンネルで公開します。ご家族でご覧いただき、地球環境を守る大切さを考えてみませんか。

演目：「～ちよっぴり考えてみよう エコのこと～ プレーメンの音楽会

エコミュージカルコンサート ～おもちゃのガラクターン～

公開期間：令和3年7月10日（土）～8月11日（水）

出演：メルヘン・ミュージック・シアター 日本芸術企画

構成脚本演出：いづみかほる



詳細は三鷹市ホームページをご覧ください！



「再生野菜おすすめ」

料理で使った野菜の切れ端をもったいないと思ったことはありませんか。

そんな切れ端を再生野菜として使うことができます。再生野菜とはリボンベジタブルとも呼ばれ、普段捨ててしまう野菜の根やヘタを活用し、再び育てることをいいます。再生野菜で一番有名なのが豆苗だと思いますが他にも様々な野菜を育てることができます。例えばキャベツや小松菜、青梗菜などの芯、元々根であるダイコンやニンジンなどのヘタなどから栽培できます。



再生野菜をするために必要な物は野菜のヘタ、水、ペットボトルやタッパーなどの容器の3点です。方法としては料理に使われない野菜のヘタや根を容器に入れ、水を薄く張っておくだけです。注意点としてあげられるのが鮮度のいいものを選ぶことや毎日水替え、日当たりなどです。またしっかり生育しても必ず成功するわけではありません。

料理で使わない部分を使うためエコで手軽に始められるのでぜひ試してみたいはいかがでしょうか。（打矢）

環境にもお財布にも人にもやさしい「エコドライブ」

トヨタモビリティ東京では「安心安全でサステナブルな社会の実現」に向け、SDGsの取り組みを通して、お客様や地域の皆様に貢献出来る活動を行っています。今回は一人一人ができる「エコドライブ10のすすめ」のご案内です。

エコドライブは燃料消費量やCO₂排出量を減らし、地球温暖化防止につなげる運転技術や心がけです。環境にもお財布にも人にもやさしい、誰でも今すぐ始められる「エコドライブ」をみんなでトライしてみましょう。（トヨタモビリティ東京 内藤）

「エコドライブ10のすすめ」

①自車の燃費を確認しよう

②ふんわりアクセル「eスタート」

→ 最初の5秒で時速20kmが目安
10%の燃費改善

③車間距離にゆとりをもって加減速を少なく

→ 市街地で2%、郊外で6%の燃費が改善

④減速時は早めにアクセルを離そう

→ エンジンブレーキが作動し2%燃費改善

⑤エアコンの使用は適切に

→ 暖房のみ必要な時はエアコンスイッチ（A/C）をオフに
→ ONにしたままだと12%燃費が悪化
冷房の効かせ過ぎにも注意

⑥ムダなアイドリングはやめよう

→ 10分間のアイドリングで130ccの燃料を消費

⑦渋滞を避け、余裕を持って出発しよう

→ 10分間余計に走行すると17%燃料消費量が増加

⑧タイヤの空気圧をチェック

→ 空気圧が不足すると市街地で2%、郊外で4%の燃費悪化

⑨不要な荷物は降ろそう

→ 100kgの荷物を載せて走ると3%燃費悪化

⑩走行の妨げとなる駐車はやめよう



★店内にあるポスター★

編集後記

「地球温暖化」「エコ」「SDGs」といった環境に関する言葉を見聞きする機会が増えています。身近になるということは、それだけ地球環境が変化し、日々の生活に影響を及ぼしていることを意味します。環境破壊を防ぐ、持続可能な社会を実現すると考えると、とても難しく感じますが、誰でも、簡単に取り組めることはたくさんあります。まずは一人ひとりが考えること、これが環境活動の第一歩です。「みたか環境ひろば」がその一歩になれば嬉しいです。（橋本）

次の発行は令和3年10月の予定です。

発行：みたか環境活動推進会議
（愛称 みんなの環境）

連絡先：三鷹市生活環境部環境政策課
電話 0422-45-1151 内線2525

E-mail:kankyo@city.mitaka.lg.jp

本誌は、市役所、市政窓口、図書館、コミセンや市のHPから入手できます。